

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

テーマ	「見つめようこの町を 広げよう人の輪を」			
1 ESDでめざすもの				
(1) ESDのねらい				
①身近な自然や社会事象に対する興味・関心を高めるとともに、進んで関わり、つながりを大切にしようとする態度を養う。				
②環境に対する責任と役割を理解して、問題解決のために知識や技能を活用するとともに、自分たちにできることを考え、実践しようとする意識を高める。				
(2) ESDで育てたい資質・能力				
①問題の解決に向けて行動する子ども（よりよく問題を解決する資質や能力）				
②事実や関係をとらえたり、分かりやすく表現したりする子ども（学び方やものの考え方）				
③身近な環境から問題を見つける子ども（主体的、創造的、協働的に取り組む態度）				
④学んだことをもとに環境との関わりを考えて生活する子ども（自己の生き方）				
(3) 本校ESDの特徴				
○低学年においては、主に生活科の中でESDに取り組んでいる。地域の農家の協力による教材園、農園での栽培活動を実施することで、自然に対する感性の高揚、参加意欲の向上、他者と協力する態度等の育成を目指している。				
○中、高学年においては、主に総合的な学習の時間の中でESDに取り組んでいる。地域の地形や施設、産業等について調べる活動をとおして、地域全体の特徴の把握とそのよさの理解を深めさせるようにしている。				
3年 九条のひみつを教えよう	4年 九条の自然を見つめよう	5年 気仙沼の恵みを探ろう	6年 気仙沼の未来を考えよう	
九条のひみつを教えよう1 (地域のよさ) ○九条たんけんをしよう ○九条のひみつをくわしく調べよう ○九条のひみつを発表しよう	地域の自然について調べよう ○川の周りを調べよう ○川の生きものを調べよう ○川の役割を考えよう ○調べたことを発表しよう	気仙沼の恵みを調べよう ○気仙沼産の野菜について調べよう ○気仙沼産の水産物について調べよう	気仙沼の魅力を調べよう ○気仙沼の魅力を考えよう ○他の地域と比較しよう ○未来の気仙沼を考えよう	
九条のひみつを教えよう2 (防災マップをつくろう) ○まちの危険を調べよう ○防災マップをつくろう ○代表児童による発表会	自然のつながりを考えよう ○海の生きものを調べよう ○川と海のつながりを考えよう ○調べたことを発表しよう ○代表児童による発表会	気仙沼の恵みを知らせよう ○気仙沼恵み弁当を作ろう ○気仙沼恵み弁当を知らせよう ○代表児童による発表会	気仙沼の魅力を伝えよう ○気仙沼の魅力を発信しよう ○代表児童による発表会	
 <防災マップの発表会の様子>	 <神山川リバーウォッチング>	 <気仙沼の食材を使ったお弁当づくり>	 <復興市場でのインタビュー>	



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



UNESCO
Associated
Schools

2 平成28年度の実践事例

◆自分たちの住む地域をよく知り、防災と関連づけた学習

① 町探検による地域の自然環境や施設を調べる活動

九条小学区は高台と平地及び市街地からなっている。校舎は高台にあるため多くの自然に囲まれており、災害時の避難場所にもなっている。一方平地には住宅商店が多く、交通量も多い。震災の際には津波で被災した地域も少なくない。

子どもたちは、自分の通学路のコースを中心として「特色のある場所」や「自分のお気に入り、おすすめの場所」について調べることを目的として町探検を行った。見慣れた町をあらためて歩いてみると、普段気付かなかった発見があった。学区内なのに神山川や羽田神社を初めて見たという児童もいた。

町探検の中で見つけた場所についてはポスター等にまとめて発表を行った。自分の通学路と違う児童の発表を聞くことで、普段通らない方面はどんなところなのか、どんなものがあるのかについて知ることができ、自分たちの住む地域の様子をより深く理解する機会となった。



〈羽黒神社の神主に話を聞く様子〉

② 地域と連携した防災マップを作り

はじめの町探検では通学路周辺に安全な場所や危険な場所があることを児童は大まかには認識しているようだった。

再度町探検を行って安全か危険かの視点で町を見て回り、地図にまとめるようにした。町探検の前には、NPO法人「SEEDS ASIA」の方にお越しいただき、町探検をする際の視点について助言をいただいた。また、防災マップを作成する際は、危険なところだけでなく安全なところをしっかりと知っておく必要があることを教えていただいた。

安全な場所、危険な場所について地図にまとめていく中で、九条小学区の民生児童委員や防犯協会の方に中間発表を行い、九条小学区のことをよく知っている人たちから地図への助言をもらうようにした。

子どもたちが調べていく中で見つけた疑問に答えてもらうだけでなく、「ふたが外れていて気を付けなければ落ちてしまいそうな側溝」など、子どもたちが見つけた危険箇所について地域の人に発表することができた。子どもたちは調べたことと助言いただいたことをもとに、防災マップを完成させることができた。



〈町の危険について発表している様子〉

防災マップ作りは、自分たちの目の高さで地域について調べ、改めて学区内の様子をみんなに知ってもらうことをねらいとして行った。作成したものは廊下や階段に掲示し、多くの児童の目に留まるようにした。

これらの活動を通して、課題解決に向けて意欲的に調べ発表したり、友達と協力しながら地域について理解を深めたりする子どもの姿を見ることができた。

3 ESD推進上の課題や、改善を図ろうとしている点

各学年において、これまでの実践により身近な環境や社会事象に対する興味・関心が高まり、周囲の人や物と進んで関わり、つながろうとする気持ちが育ってきた。これは、地域人材や交流先との連携を、効果的かつ円滑に行うことができてきた成果だと考える。

今後は、カリキュラム・マネジメントの視点からこれまでの実践を通して蓄積してきた人材を活用するとともに、新たな地域人材および交流先の発掘について継続的に取り組んでいきたい。また、保護者や地域の方々、外部講師との学習活動を通して、地域の自然や人に対する興味・関心をさらに高めるとともに、主体的、創造的、協働的に活動し、身近な環境から問題を見付けることができる子どもの育成を目指し、実践に努めていきたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）